



森林関連学会合同シンポジウム 「主伐を考える」



主催： 林業経済学会
共催： 森林計画学会・日本森林学会
後援： 森林利用学会・日本生態学会

戦後に植栽された人工林の高齢級化が進み、1,000万haの過半数が主伐期を迎えようとしています。森林・林業再生プラン以降、国家政策の中で成長産業の仲間入りを果たした林業は、こうした国内資源の充実を受け木材生産量の大幅な増加を目指して活発に動き出しています。

しかし、国産材の増産は伐期齢に達している人工林の投げ売りというような一時的なものであってはならず、高位安定で継続的な生産、すなわち持続可能な森林経営が達成されたうえでの増産でなければなりません。現在の林業が直面する問題は、これまでのような間伐の促進や安易な長伐期化ではなく、主伐と更新についての技術的・政策的に確固とした将来展望であり、敷衍すれば日本全体の森林をどうしていくかという問題ではないでしょうか。

そこで、主伐問題をテーマとして森林関連の5つの学会における最新の研究成果を集めた合同シンポジウムを開催し、林業関係者や一般の方々と交えて情報や意見交換を行い、この問題に関する議論を深めたいと考えました。ご興味をお持ちの多くの皆様方の参加をお待ちしております。

日時： 2016年12月25日(日) 13:00～18:00

場所： 筑波大学東京キャンパス134講義室（定員210名）
東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅下車徒歩5分

スケジュール

13:00 開会の挨拶

13:15 正木 隆（日本森林学会・森林総研）「生態学の立場からみた主伐・再造林のあり方」

13:55 岡 勝（森林利用学会・鹿児島大）「一貫作業システムの技術的な課題」

14:35 休憩

14:55 山浦 悠一（日本生態学会・森林総研）

「人工林の主伐は生物多様性保全のチャンス!? 木を伐って、残して守る日本の自然」

15:35 白石 則彦（森林計画学会・東大）「主伐と齢級構成の長期展望、林業経営の採算性」

16:15 休憩

16:35 パネルディスカッション

座長：藤掛 一郎（林業経済学会・宮崎大）、パネリスト：報告者の4名

17:55 閉会の挨拶

18:00 終了

★ 参加は無料です(予約の必要はありません)。

★ シンポジウム終了後に報告者を囲んで懇親会を予定しています(参加費は4千円程度)。

参加ご希望の方は、以下のアドレスに「懇親会参加希望」として所属と氏名をお知らせ下さい。
懇親会受付メールアドレス <2016godo_sympo_konshin@jfes.org> (締め切り12月20日)

お問い合わせ

林業経済学会 広報・渉外担当理事

大田 伊久雄（琉球大学農学部）

電話 / Fax: 089-895-8777

E-mail: ikuota@agr.u-ryukyuu.ac.jp





シンポジウム報告者の紹介

正木 隆(まさき たかし)

森林総合研究所 森林植生研究領域長



【専門分野】 森林生態学

【主な著作・論文】

正木隆(2016)『森林施業プランナーテキスト改訂版』森林施業プランナー協会(共著)
正木隆(2011)『森林生態学』共立出版(共著)
正木隆(2006)『森林の生態学—長期大規模研究からみえるもの』文一総合出版(共著)

【メッセージ】

今から50年ほど前の科学的知見では、ある林齢を過ぎると林分の成長が低下し始めると考えられていましたが、現在ではそれが必ずしも正しいとは限らないことがわかってきました。主伐の前提となる科学的知識も、従来とは変わってきています。常にこういった新たな知見を活かせる林業政策であってほしいものです。

山浦 悠一(やまうら ゆういち)

森林総合研究所 主任研究員



【専門分野】 森林の管理と生物多様性

【主な著作・論文】

Yamaura, Y., et al. (2016) How many broadleaved trees are enough in conifer plantations? The economy of land sharing, land sparing and quantitative targets. Journal of Applied Ecology 53:1117-1126.

山浦悠一・森章(2012)『エコシステムマネジメント:包括的な生態系の保全と管理へ』共立出版(共著)
山浦悠一・岡裕泰(2012)変わりゆく森林・林業、生物多様性:攪乱不足の日本における林業の新たな役割「森林技術」844: 16-20

【メッセージ】

森林で鳥や植物を調査してきました。伐採は森林を大きく変えるイベントです。野外調査の結果や土地利用の歴史、海外の動向などから、人工林伐採の保全上の意義、そしてその際に何ができるのか、考えたいと思います。

岡 勝(おか まさる)

鹿児島大学農学部 教授



【専門分野】 森林利用学

【主な著作・論文】

山口浩和・岡勝ほか(2015)グラップルローダを用いた丸太積み込み作業における熟練オペレータによる機械作業の特徴「森林利用学会誌」30(1): 17-28
岡勝(2005)稼働実績をもとにした高性能林業機械の損料率の算定「森林利用学会誌」20(3): 183-191
岡勝(2001)『機械化のマネジメント』全国林業改良普及協会(共著)

【メッセージ】

現場では、低コスト化が待たなしで求められています。「主伐」について考えるこの機会に、「素材生産システム」をどの程度拡張できるか、という観点から「一貫作業システム」の問題点等を考えたいと思います。

白石 則彦(しらいし のりひこ)

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授



【専門分野】 森林経理学

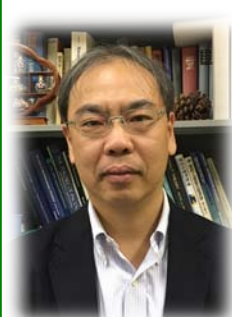
【主な著作・論文】

白石則彦(2012)『改訂 現代森林政策学』日本林業調査会(共著)
白石則彦(2004)『人と森の環境学』東京大学出版会(共著)
白石則彦(2002)『森林ビジネス革命』築地書館(共編訳)

【メッセージ】

『森林は時間の蓄積』です。人工林資源が成熟しつつある今こそ、国内唯一の森林経理学研究室の教授として、地域の森林資源を賢く持続的に活用するための理論と実践を広めていきたいと考えています。

座長 : 藤掛 一郎(ふじかけ いちろう) 宮崎大学農学部 教授



【専門分野】 林業経済学

【主な著作・論文】

藤掛一郎(2015)『林業構造問題研究』日本林業調査会(共著)
藤掛一郎(2010)国産針葉樹製材用素材市場と林業労働力市場の同時方程式体系の構築「林業経済研究」56(1):40-48
藤掛一郎(2006)人工林の成熟が立木市場に与えた影響:スギ立木市場の計量経済分析「林業経済」59(4): 13-26

【メッセージ】

主伐や再造林は、結局は所有者個人の選択問題ですが、環境や資源の観点から社会全体として山のあり方を見直す機会であり、また事業者や行政など様々な関わりが重要であり、関係者の幅広い議論が必要と感じています。